



広重版画より 三島 朝霧

## 第2326回例会

2022.6.2晴

司 会 秋山恭亮君

国歌斉唱 四つのテスト

ロータリーソング 「奉仕の理想」  
指揮 小塚英樹君

### 会長挨拶

会長 森崎祐治君

今年度も最終月の6月に入りました。

このところテーブル会へ出席させていただく機会が増えて楽しいお話を聞かせていただいています。

先週はAテーブル会では松韻さんのきれいな庭を眺めながらの開催でしたが、各自「仕事の近況と食べ物」というお題で一人ずつ話していただいたのは親睦を深め若い会員も含めお互いを知るうえで良い企画だったと思いました。またEテーブル会では平出さんのお店でおいしいコース料理をいただきながら楽しい話で盛り上がりしました。次期RI会長、初の女性会長のジェニファー・ジョーンズさんはあの映画「慕情」(1955年)のハリウッド女優と同じ名前だと若い人にはわからない古い話も出ましたが女優の方は調べましたら本名は別にあるこれは芸名のようです。次期RI会長の名は女優のような素敵な名前ということになるのかもしれませんが。日本で言えば「吉永小百合」といった名前でしょうか、でも「山本富士子」のようかもしれません。

年が分かってしまうような話ですが本年もおかげさまで若い会員が増えました。

ここで入会を予定しているお二人を入れますと今年度7人の新しい会員が誕生したことになりますが皆さん若いので7人の平均年齢を計算してみました。入会時の年齢で平均するとなんと45.3歳でした。今年度スタート時の全会員の平均年齢が65.9歳ですからほぼ20歳若いということになります。若い会員が増えて年齢の広がりはとても嬉しいことです。多様性の観点からするとあとは女性会員の増加でしょうか。

本日は参議院議員、今井絵理子さんにご出席いただき卓話をお願いしてあります。

どうぞよろしくお願いいたします。

### “こんにちば、ようこそ”

ゲスト 今井絵理子さん(参議院議員)  
清水英治さん  
(関本文・須田君のゲスト)  
渡邊真生さん  
(関本照・杉崎・前田博君のゲスト)

### 出席報告

|     | 出席総数  | 出席率    | メークアップ | 修出席率   |
|-----|-------|--------|--------|--------|
| 前々回 | 46/50 | 92.00% | 47/50  | 94.00% |
| 今回  | 45/50 | 90.00% | 会員総数   | 53名    |

欠席者 秋元君、加藤君、窪田君、諏訪部(照)君、町野君

### 幹事報告

幹事 川名正洋君

#### 1. 今後の予定

9日(木) 呉竹 18:30 夜間例会 クラブ協議会

23日(木) 富嶽はなぶさ 18:30 さよなら例会

2. 来週9日はクラブ協議会です、各委員長は年間報告をお願いします。

3. 年度末です、委員会で出金のある方は次週までに事務局宇都宮さんまで提出してください。

4. サヨナラ例会の出欠席をまだ提出していない方は親睦委員長平出さんに提出をお願いします。

#### 理事・役員会報告

① 50周年キックオフミーティングについて

50周年実行委員会の仕切り約30分で行う。

式次第 1. 森崎会長挨拶 2. 室伏実行委員長挨拶

3. 室伏実行委員長から各委員長紹介＆各委員長より一言ずつ頂く。4. 締め

② 地区大会等参加時の経費について

基本的には経費は自分持ちでやるべきだが、その都度理事役員会で話合う。今年度は実費負担分を会より支出する。

③ 次年度幹事より

委員会の引き継ぎに関して全体では行わず個々にて行う。

## おめでとう

会員誕生日 古屋君、柴崎君  
奥様誕生日 佐野君  
結婚記念日 橋本君

## スマイルボックス

- ◆ 諏訪部(敏)君、昨日、前の会社の友人3人が三島に観光に来ました。伊豆の国市に連れていきましたら、かつらぎ山ロープウェイが休み、願成就院が休み、鎌倉殿の13人の展示場が休み、ひるが小島と反射炉だけを見て帰りました。伊豆の国市は何をやっているんでしょう。
- ◆ 橋本君、今日早退します。

## 卓 話

### ～障害は一つの個性～

参議院議員 今井絵理子さん



私は沖縄で生まれ育ち、12歳の時からSPEEDとして東京で活動しました。20歳で結婚し21歳で息子を出産、生後3日目に新生児聴覚スクリーニング検査を不安もためらいもなく受けました。結果、聞こえること、目が見えること、歩けること、手があることが当たり前と思っていた当時の自分に息子の耳が聞こえないという事実が発覚、神様はなんて残酷なのだろうと打ちのめされました。音楽に携わる私は歌や音楽を息子に届けたいと思っていましたが神はなぜ我が子の耳を奪ったのでしょうか。私の初めての子育ては、五体満足で生んであげられなかった親としての懺悔、将来への不安、障がいと向き合いスタートしました。

それから泣く日々が続きましたが、私の泣き顔を息子が見た時どう思うのだろうと、子供の寝顔を見ているうちに気持ちに変化が起こりました。耳からの情報は得られなくても視覚で情報を得ることが出来るのです。

息子の瞳には素晴らしく温かく優しい世界を見せてあげたい、母としてどんな時でも笑顔でいよう、障がいを受け止めどんなハンデがあっても笑顔で乗り越えていこうと息子に誓いました。以降これまでの18年、笑顔の子育てを实践、会話は全て手話です。現在息子は自分の夢を叶えプロレスラーとし

て神奈川県川崎市を中心とした団体で活動しています。仲間とのコミュニケーションで戸惑うこともあったと思いますが、夢をあきらめずに進んだことは母としてとても嬉しく思います。

母子通園施設に通っていた当時は、息子の為に芸能活動のスケジュールを減らし、療育を受けていました。そして、3歳になった時に初めて24時間テレビで聴覚障害を公表しました。同じ境遇の子や様々な障がいを持つ子供達と交流する中で、私達が外から抱えているイメージとは違い、皆明るく前向きに障がいを受け入れて生きていることをテレビを通じて見てもらいたいと思ったからです。

私自身も笑顔をテーマに公表させて頂き、「障がいは一つの個性としてとらえること、不便だけど不幸ではない、そういう社会を作りたい」とメッセージを発信しました。それから10年、全国各地の聾学校、特別支援学校、様々な障がい福祉事業で歌や絵本の読み聞かせ、ダンス等のボランティアを続けてきました。そして、歌手以外にもNPO法人を立ち上げたい、少しでも障がいのある方や家族が笑顔になる居場所を作りたいと思っていた矢先、聴覚障害児を育てたお母さんをつたえる会・会長、山東昭子現参議院議長に政治家にならないかと声をかけて頂きました。それまで仕事、子育て、療育という訓練に明け暮れていて政治に関心を持つことはありませんでしたが、山東先生に「本当に世を変え、障がいのある方の役に立ちたいのなら政治の世界で勝負して制度や福祉の仕組みを政治家として変えたら如何でしょう」とお誘いを受けました。これが6年間の政治家としてのスタートです。この6年で変えられたこと、変えられなかったこと様々ありますが、政治家になって良かったことは、法律を作り予算をつけることが出来たことです。障がい福祉という光が当たりにくい分野で、子供達当事者、ご家族に光を当てるのは政治家の役割であるという思いで活動を続けてきました。

企業におきましても障がいのある方の個性や特性を活かした環境作りの為、雇用法定率に基づいた取り組みを進めて頂いているかと思います。私の事務所でも耳の聞こえない秘書と一緒に仕事をしています。皆様をお願いする前に自らも経験することが必要と対話をしながら職場を改善しているところです。共に働くスタッフも手話や筆談を身に付け、職場の理解や協力が必要であると実感しています。

また、私が車いす生活になったように 人は皆、病気や事故に合う可能性があります。ですから障がい者政策、障がい福祉というのは 一部の人の為ではなく全ての方が豊かで過ごしやすい社会づくりの為の政策だと思っています。

駅のエレベーターは元来、車いすの方々の為の物でありましたが、今はベビーカーの方、大きな荷物を持った方にまで利用が広がっています。エレベーターになぜ、鏡があるのでしょ。前から入って後ろ向きで出る車椅子ユーザーにドアが開いたことをお知らせし、後ろをしっかりと見る為のものなのです。我々が便利と思っている事は障がいのある方々がきっかけであることが多いのです。

今後もそのような方々のお力になれるよう、そして皆さんが豊かに、またこれから生まれてくる子供達にとっても豊かな社会になるように、私自身もしっかり取り組んで参りたいと思っています。そのためには国だけではなく一人一人の皆様のお力が必要です。どうぞ今後益々のご理解とご協力を宜しくお願い致します。

(週報担当:森藤 賢)